

審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	第 15 期 第 2 回男女平等参画推進審議会
開催日時	令和元年 8 月 23 日（金曜日） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
開催場所	女性総合センター 第 2 学習室
次第	1. 開会 2. 議題 立川市第 6 次男女平等参画推進計画実施状況報告（平成 30 年度年次報告）について 3. 閉会
配布資料	1.
出席者	[委員] 会長加藤恵津子、副会長佐藤良子、酒井美恵子、小柴ひかり、坂本澄子、矢野美智子、小柳郁美、津崎結子、山本麻衣奈、森林 育代 [事務局] 岡田幸子（男女平等参画課長）、横田昌彦（男女平等参画係長）、齊藤藤悦子（男女平等参画係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	1. 立川市第 6 次男女平等参画推進計画実施状況報告（平成 30 年度年次報告）について グループ討議 [1] A グループ（テーマⅡ、テーマⅢ） 基本テーマⅡ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進について討議を行った。 施策 1 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に向けた環境づくり <男女平等参画課 7> ・たちかわ男女平等フォーラムは毎年内容や日程は変わる。フォーラムに位置づける講座が減ったので開催回数が減り、参加人数も減った。 ・終活講座は人気なので、回数や定員を増やしてみてもどうか。 また、今回はお一人様女性向けであったが、男性向けもいいのではないか。 ・アンケートの満足度が 94.7%と高い。年齢層が分かれば次回の検討に役立つので、年齢を確認すると良い。 <生涯学習推進センター 7、子育て推進課 8> ・共催事業であり、課ごとに分けているが内容は同じである。 ・最近では「イクメン」という言葉は使わないほうが良い。本当に育

児を行っているお父さんは「イクメン（笑）」という感じで、イクメン気取っている人が使う言葉になってきた。

- ・パパ向け講座もアンケートをしてほしい。

<男女平等参画課 8>

- ・成果指標の数字が古い、ここは講座参加人数またはアンケートの満足度にするとか数字の持ち方に工夫が必要。

<健康推進課 8>

- ・妊婦とその家族の講座は夫の育児に対する自覚を促す内容で素晴らしい。H29 に比べて H30 は夫の参加者数が急増している理由は？
- ・夫同士のつながりができると経験談を話すなどの取り組みができていいかもしれない。

<男女平等参画課 9>

- ・成果指標が古いデータなので違うものにした方がよい。

<男女平等参画課 10>

- ・男性専用の相談窓口があっても良いのではないか。
- ・現状の相談員 3 人から増員や相談できる曜日を増やしても良いのではないか。

<男女平等参画課 11>

- ・ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定のインセンティブがないので、一般人のいる認定式になるよう大々的にやってほしい。
- ・パネル等を市役所に貼るなど宣伝になるようにするといいのではないか。

<男女平等参画課 12>

- ・ワーク・ライフ・バランス推進セミナーのテーマにある“女性活躍”は最近の若い女性には地雷ワードなのでイラッとする。“女性活躍（笑）”となってしまう。男性の特におじさんに響くワードである。男女を意識しないようなワードでテーマにできると良いのではないか。

<産業観光課 12>

- ・成果指標が古い。担当課評価にある反省は 2 年連続同じ反省であるので同じ反省をしないよう工夫するように。

<人事課 13>

- ・新規採用者だけでなく、中間年齢の人への休暇制度や時間外に関する周知もしないと、休暇などが取りにくいのではないか。

<協働推進課 14>

- ・自治会活動のことがそもそもなぜ男女の計画にあるのか。成果指標を自治会長や役員女性の女性割合にしたらい。

施策 2 男女の多様な働き方の子育て支援

<子ども家庭支援センター 16>

- ・子育ての相談や発達相談が増えている。働くお母さんに合わせた相談の時間設定などの支援をお願いしたい。

<福祉総務課 16>

- ・民生委員・児童委員への相談も働くお母さんに合わせた相談の時間設定をお願いしたい。

[2] Bグループ (テーマⅠ、テーマⅣ、テーマⅤ)

基本テーマⅠ 男女平等参画と人権の意識づくり

施策1 男女平等参画の意識づくり

<男女平等参画課 1>

- ・担当課評価の記載内容が分かりにくい。
- 記載内容を修正する。
- ・仕事をしながら男性主導型の育児をされている人の話は聞いてみたい。

<生涯学習支援センター 1>

- ・参加者数が増えて良かった。
- ・育児（作業）を手伝うという講座もよいが、母親をフォローするような講座があると家族が円満になるのではないか。

<人事課 1>

- ・学校関係者が来られなかったということであるが、最前線の人なので、学校関係者が来られるような日程調整を行うことが必要と考えられる。

<男女平等参画課 2>

- ・広報たちかわ特集記事が、前年度2回より減っているのはなぜか？
- H29年度は、たちかわ男女平等フォーラムの他にワーク・ライフ・バランス推進事業所についても特集記事を掲載している。
- 今後はまた情報紙「アイム」と広報たちかわでリンクしながら特集記事を増やしていきたい
- と考えている。

<指導課 3>

- ・2年続けて同じ課題はどうなのかと思う。
 - ・立川市指導課としては人権についてどう考えているかを示すとよい。
- 東京都の指導要領に基づき実施している。

<男女平等参画課 4>

- ・アンケート満足度100%はとても良いと思うが、どのような時にとった数値なのか。
- 講座参加者に対し、満足度を5段階評価してもらい、「大変よかった」

と「良かった」の上位二つの合計数値。

- ・参加者数も増えて良いと思う。
- ・LGBTはとても難しいと思う、「性的少数者」という言葉自体が特別扱いになってしまうように感じられることは仕方ないことかもしれない。しかし、特別でない（弱者ではない）、その人らしさであるということの認識をおさえて、講座企画や指導を行っていかなくてはならないと思う。
- ・「性的少数者」ではなく「多様な性」という表現を使いましょうという報告があったと思うので、こちらの部分でも「多様な性」という言葉を使用するとよいと思う。

施策2 人権の意識づくり

<指導課 4>

- ・参加者数が減っているのは学校が減ったのか？
→けやき台小学校と若葉小学校の統廃合により、小学校が1校減ったため。
- ・立川市内において、実際にLGBTで困っている小学生等はあるのか？
→教育部局から特別に上がっているものはない。教職員の研修を通して人権教育の取り組みを進めることで、生徒から先生へ伝えやすい環境が少しずつできているのではないかと考えられる。
- ・立川市でも制服について勉強してもらい検討して欲しい。
- ・LGBTに限らず、制服に関してはスカートをはきたくない等の子どもたちもいることを理解し検討して欲しい。
- ・表に見える配慮として、制服がスカートでもスラックスでもよいという学校が増えているが立川の状況は？
→立川市では、LGBTに限らず柔軟な対応をしている。
- ・多様性を考える上で、校則とは何かも考えることは必要。

<男女平等参画課 5>

- ・参加人数が増えてとても良いと思う。もっと増やすとよい。

<男女平等参画課 6>

- ・SNSの講座は今年度なかったのか？
→29年度は東京都職員による講師で開催したもので、今年度は開催がなかった。次年度以降は東京都と交渉を進めまた開催していきたい。
- ・対象を小学校5,6年生にした講座の開催も検討して欲しい。低学年可しているので、簡単な言葉で分かりやすく伝えて欲しい。
- ・これは全校でやるということにはならないのか？
→中学校では年間スケジュールが多くあり割り込むことが難しい。
- ・インターネットから変な情報を得るよりは、早めに小学校のうちから学校から正しい情報を与えて欲しい。

・学年ごとに応じた対応を勉強してもらいたい。

<指導課 6>

・立川市内では、ネット上でいじめられたということはあるのか？

→そのような話はまだ聞いたことがない。

・小学生は携帯を持っているのか？

→※別紙参照

平成 30 年度「携帯電話などの利用状況に関するアンケート調査」

立川市教育部指導課

・学校への持ち込みは禁止と聞いている。

・参加者数が増えていてよい。

基本テーマⅣ 配偶者等からの暴力の防止

施策 1 暴力の未然防止と早期発見

<男女平等参画課 37>

・講座の回数が増え、参加者数も増え、アンケートの満足度も高くなり良いと思う。

・もっと広めたい、広める方法を考えて欲しい。

・被害者の早期発見はどうやって行っているのか。

・立川市に行かなくとも、近場に子どもが迷ったときの相談窓口を作ることも大事であると思う。

・DVカードによって相談窓口等の連絡先を知るようにするには、保護者等にも配布することが必要ではないか。

・DVカード（相談窓口記載）を作って広める努力を継続して欲しい。

<男女平等参画課 38>

・若年層（保育園・幼稚園）の講座は費用がかかるのか。

→NPO 法人が補助金を使って講座を実施しているため、立川市の費用負担はない。立川市は積極的に講座実施を希望しているため多数の企画を行うことができている。

・幼児教育に関しての講座も引き続き継続して欲しい。

<男女平等参画課 39>

・研修会が減っているのはなぜか？

→東京ウィメンズプラザの共催以外に、さらに講師を招いて実施したDV防止職員研修の講座が29年度にはあったため。

<生活福祉課 40><男女平等参画課 40>

・どうして6回から1回に減ってしまったのか？

→29年度は、マイナーポータルにおけるDV被害者の取り扱いについて定める制度を立ち上げるために連絡会を6回行っていたが、形が整ったために30年度は1回になった。

⇒・事業活動内容にその内容が記載されていないため、単に数が減

